

令和 6 年度 第 3 回刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和 7 年 1 月 22 日（水）午後 3 時 00 分～4 時 30 分

2. 場所

刈谷市役所 101 会議室

3. 出席者

会長及び委員 19 名（欠席 1 名）

事務局 16 名

4. 議題

（1）刈谷市こども計画（案）について

事務局から資料 1 から資料 6 について説明した。

（質疑）

- ・委員 資料 5 の乳児園の意見について、意見者の意図が正確には分らないが、「保護者が不安になる」という点について、市の考え方と少しズレているのかなと思った。保育園と幼稚園で分かれてしまうと、こどもが 3 歳になって保育園から幼稚園に入園した場合、最初から幼稚園に入園させようと思っていた保護者と考え方が全く違うため、孤立をしてしまう。幼稚園は 14 時半にお迎えとなるが、保育園から来ている保護者は仕事があるので 14 時半には絶対にお迎えに行けない。お迎えに行けないということは預かり保育をする。でも、幼稚園に入ろうと思っている保護者は 14 時半にお迎えに行ける。14 時半にお迎えに行けるということは、幼稚園終わりに、こどもたちと保護者がみんなで公園で遊んだり、お友達の家で遊んだり、そういうことを今の刈谷市の幼稚園の保護者とこどもはしていて、預かり保育だとそこへ入り込めないという現状がある。10 年前はそれが本当に酷くて、幼児

園に入れない保護者がいた。今は幼児園の方が小学校に隣接しているので、こどものためを思って幼児園に入りたいという保護者も多いが、保護者の仕事の都合で預かり保育を入れてしまうと、こどもの一日の遊びの中で「帰りに遊ぼうよ」という約束ができる子とできない子でいじめが起きてしまう。「帰りに公園に行けないなら一緒に遊ぶのをやめよう」といったことがあるのを聞くと、幼児園に行くことを不安に感じる保護者がいるという意見かなと思った。市はそういうことまで踏み込んで知っているのか。こどもたちも保護者もとても不安に思っているので、10年前にこどもが幼児園に行っていて、現在、年少のこどもを持って幼児園にいる保護者の意見としてお話をさせていただきました。

- ・事務局 委員のご質問について、今回のご意見から読み取った中では、3歳からまた保育園探しをするということで別の園に変わるということ、つまり「一旦、0歳や1歳で入ったら5歳までいられる」ということではなくて、「3歳になったら、また入園する時の苦労や不安を味わわなければいけないのか」という思いがあると感じ、それについては園が変わることは事実なので、入園をする時、変わる時といった様々な節目で、同じような不安はなく、希望があればそれに近い園に入れるような体制や情報提供をしていくということで市の考え方に記載した。

幼児園の中で、いわゆる14時半で帰る子と、16時半やさらに長い18時半まで保育が必要な子が混在している中で、園の性質が変わることについての不安については、直接的な回答を市の考え方に入れていなかった。

今お話があったように、園の中では実際に14時半に帰る子と16時半に帰る子で、保護者の方やお子様の中で色々な考えやグループができていたとの実態はお伺いしている。逆に、早く保護者が迎えに来て帰っていく子もいれば、「私はまだここにいなきゃいけないの」とい

うこどもたちの思いもあるので、ここは幼稚園そのものの性質として解決すべき課題、または園の運営の中で不安を解消すべきものと考えている。あくまでも今回の意見に対する市の考え方の中では、その視点については特段言及しない形としている。

- ・委員 先ほどの幼稚園に通われている保護者の意見について、そのようなご心配もあるのだと、併せて、園を途中で変わることなく0～5歳まで通える園を増やしてほしいという要望があるということを知った。

他方で、こどもたちの受け皿としては、幼稚園の方が認定こども園に移行をして長時間保育にも対応できるので、仕事をしている保護者のこどももきちんと預かることのできる体制となっていると思う。

そうした中で、保護者の皆さんの心配事を払拭するために、幼稚園・認定こども園の良さやメリットについて、もう少しアピールする活動があっても良いと思った。そのような活動をすることで、保護者の苦勞は色々あるものの、「こういう良さもあるんだ」「じゃあこっちでも良いかな」と幼稚園を選ぶ手助けになるのではないかと思った。

もう1つ、7番の意見で「質の高い教育とは何を指すのか」という指摘について思うことがある。

市の考え方では、こども計画や教育大綱といった言葉が出ているが、幼稚園の場合は文部科学省から幼稚園教育要領という小学校の学習指導要領のようなものが出ている。それから、保育園は厚生労働省から保育指針が出ている。認定こども園については内閣府から教育・保育要領というものがあり、「3歳から5歳までの保育内容については、どこの施設に行ってもみんな小学校1年生に上がるので保育内容は一緒にしましょう」というような内容になっている。そういった、国から出ている指針をしっかりと受け入れながら保育をしていることもアピールしたらどうかと思った。

- ・事務局 認定こども園については、非常に充実した整備をされている所もあり、保育園との連携も含めて現場の先生にも頑張ってもらっている。その良さについては直接的にはできないかもしれないが、色々な所でPRして、実際に園に通う保護者に安心して選んでもらえるように考えていきたい。

もう1つのご意見については、国が示している全国的な指針がありつつ、刈谷市独自の教育大綱や今回のこども計画があると考えている。その一律の指針を大事にしながら、一方では刈谷市独自の「さらに質の高い教育」を、教育大綱なりこども計画なりで目指していきたいと考えている。

- ・委員 このようなパブリックコメントをすると、計画に対して悪い意見しか出ないと見ていて思った。これらの意見を踏まえて家の中で話し合った時に、今、私の下の子も乳児園に入っているが、乳児園になったことによってメリットはあっていると感じている。

普通の幼稚園や保育園だと上から下までたくさんの人数がいるので園庭で自由に遊ぶことができないが、乳児園だと0歳や2歳の小さな子も、普段はお兄ちゃんがいて遊べないようなスペースで広々と遊べる。また、雨の日でも遊戯室で遊べるというのは非常にメリットがある。そのようなメリットを回答の中に入れても良いのかなと思った。

今の市の考え方の書きぶりでは、「刈谷市の乳児園で解決できています」という内容であるが、乳児園から普通の保育園や幼稚園に変わることは、人によって様々なストレスが発生すると思うので、乳児園の良さをアピールすることだけでは納得感が得られないのではないかな。

もう1点、これはなかなか難しいところではあると思うが、乳児園から幼稚園に移る際、環境とともに先生もガラッと変わってしまう。保護者もこどもも、同じ園であれば、前に受け持っていた先生がいるが、園が変われば、全く新しい人間関係を作らないといけない。先生

の持ち上がりのようなことができると思う。保護者も子どもも多少安心できるし、書面だけではわからないところも引き継ぎができるので良いと思う。

もう1点、乳児園と幼児園で別々の所に通っていると、まだ乳児園も幼児園も新しい環境なので、例えば、休みの時の給食の事前連絡について、乳児園では不要だが幼児園では必要、ということを忘れてしまうことがある。そういうやり方の違いを先生も知らないことがあるので、各自忙しい中、コドモンなどの色々な新しい取組も含め、情報共有としてどのようなやり方、活用をするのが適切なのかを考えてほしい。

- ・事務局 今回のご意見の中で、委員のご指摘のとおり、乳児園に関しての不安な点だけでなく、乳児園の良かった点に関して意見もいただいたことで、私たちとしても不安の払拭や、今後の乳児園の定着に当たって必要なPRであると思う。

また、委員からの意見だけでなく、実際に乳児園に通われている方、利用された方からの意見についても、良いところも悪いところもよく聞いて、良いところをより皆さんに知らせていって、懸念については解消に努めるという、一番の基本については今後も徹底していきたい。

次に、引き継ぎのことについては、毎年的人事異動がある中で、例えば、乳児園にいた先生が幼児園に移るという人事異動を考える時には、そのままお子さんと一緒に上がっていただけるような可能性に留意して、色々な要望を人事サイドに提案していきたい。全てが「必ず」とはいかないが、「少しでも」ということは私たちの姿勢として持っていこうと思う。

さらに、保育園の方でやらなくても良かったことが幼児園の方では求められるということについては、今は指導要領など色々なところで保育と教育を合わせていくということがあるので、そのような細かいところについても、園が変わってもなるべく保護者が不安にならない

ように、その辺りのルール統一、整理については今後も進めていきたい。いただいた意見については子ども課、現場として検討させていただく。

- ・ 委員 質問というよりは感想に近いが、8番の意見について、こどもからの意見の可能性があるという趣旨の説明があった。この意見に対してもパブリックコメントなので、とても丁寧に回答していると思う。前回会議の際、「今後もこどもからの意見聴取をする」と説明があったが、こどもの意見・大人の意見という区別はせずに、このような形で真摯に対応することで、こどもの意見というものがどんどん活きたものになっていくのではないかなと思う

また、こども向け概要版の6ページに関する意見への回答で、「大人“も”」という言葉があった。このこども計画の中では、「こどもの自己肯定感が下がっている」という説明があるが、「それでは、大人の自己肯定感が高いのか」と疑問に思った。社会全体で自己肯定感が下がっているのかもしれないが、こどもを軸に考えていくことで、大人も含めて社会全体が良くなっていくのではないかなと思うので、こどもの意見を貴重な意見として反映させていってほしいと思っている。

- ・ 委員 今回の意見と反対の意見かもしれないが、私は前回会議の時に、「こどもの権利を尊重するのは非常に大切だが、こどもにも他の人の権利を尊重することを教えてほしい」という意見を出した。ほぼ計画ができあがっているので今から直してほしいという話ではないが、そういったことを踏まえて1点引っかけたところがある。

基本理念で言っている「社会の主役は、こどもたちである。」という言葉について、これは「こどもたちオンリー」なのかなと。「こどもたちも主役」というのはわかるが、「こどもたちだけを主役」にするのはどうなのかなという感覚がある。

私の立場で言うと、高齢者も障がいのある人もみんな主役だと思っているので、国の「こどもまんなか社会」も「こどもだけが真ん中なのか」「こどもも真ん中なのか」というその辺りの考え方、それから、市の基本理念もどのような考え方に基づいてこのような書き方をしているのか説明をしてほしい。

- ・事務局　こども大綱で、「こどもまんなか社会」というワードが使われているが、現状の社会を見た時に、それぐらいの強い言葉を使って一旦振り返すことを国は目指しているのではないかと認識をしている。

そういった分析の下、市として今回計画を作るに当たって、全体を見た総合計画を作ることとは違うということで、「こども中心に一回振り切ってみよう」という考え方を基にこのワードを使っている。本当にそのような社会があるべきかどうかとは別問題として、「一旦、それぐらい振り切った考え方で見直してみよう」「その結果、どのような社会ができるのだろう」ということを一回検討してみたらどうだろうかという意図である。

- ・委員　スローガンみたいなもので強く言ってそれに向かっていく、それがあっちに振れたりこっちに振れたりして良いところで収束していくと思う。色々と施策を考える中で、こどもも大人も含めた色々な人が主役で輝く社会になってほしいので、施策の方をよろしくお願いしたい。

- ・会長　本日の会議でいただいた意見で計画を修正することはあるか。

- ・事務局　今の基本理念のところに関しての修正は、現段階では考えていない。先ほどのパブリックコメントに関する意見の中で、乳児園のメリットを回答に盛り込むべきかについては、修正の可能性がある。そこについては一旦持ち帰り、修正があれば改めて文書で送付させていただく。

おそらく大きな修正にはならないので、それでご了承をいただければと思う。

- ・ 会 長 委員から計画初期の段階で、「なぜ子ども・子育てではなくて、子どもだけになったのか」「子育て支援で今まで積み上げてきたものが縮小される危険性があるのではないか」といった趣旨で大事なご意見をいただいていた。私も委員の意見を伺いながら改めて計画案 59 ページを見てみると、そのようにも読まれてしまう可能性があると感じた。

例えば、「こども計画でこどもたちが社会の主役である」という書き振りもあるかなと思うが、この段階での修正は難しいと思うので、計画ではこどもメインで言っているが、社会全体の一人ひとりが主役であるということがズレないように、今後、発信する文言の工夫をしていけると良いと考えた。検討してもらいたい。

- ・ 委 員 刈谷市こども計画こども向け概要版について、図の中の文言にふりがながないので、修正できるのであれば修正してほしい。

- ・ 事務局 修正可能な範囲で修正をしたい。おそらくできると思う。

(2) 多様な集団活動事業の利用支援制度について

事務局から資料 7 及び別紙 1 について説明した。

(質疑)

- ・ 委 員 「多様な集団活動の場所」というのは、認可外保育園やインターナショナルスクールも含めた場所ということか。

- ・ 事務局 そのとおり。

- ・ 委 員 インターナショナルスクールは刈谷市内に2か所あると思うが。
- ・ 事務局 委員の言うインターナショナルスクールは認可外保育施設で、これについては幼児教育・保育の無償化の対象となっているため、「多様な集団活動の場所」には当たらないと思われる。

- ・ 委 員 簡単な確認も含めて4点。

今の話と関連して、これに該当するような活動施設が刈谷市に今あるのかが1点目。

2点目は、従事者の数や面積に「おおむね」という言葉が付いているが、数字に対して付けるとグレーゾーンが生じてしまうと感じるのでなくても良いと思う。この「おおむね」というのはどのような意味合いで付いているのか知りたい。

3点目は、記述の順番について。7番の(2)は補償の話なので、(1)、(3)、(4)、(5)を講じてもやむを得ない事故が発生した場合の備えの話だと思う。よって、(2)の補償の話は最後に来るべきではないか。

4点目は、この制度は利用者への補助に関するものであるが、事業者への支援について。事業者も人がたくさん必要となるし、保険料もかかるし、施設も整備しなければいけないし、訓練も実施しなければいけない。事業者への支援は何か考えているか。

- ・ 事務局 1点目について、現在のところ把握しておらず、おそらくないと思われる。ただ、刈谷市民のこどもが市外の集団活動に参加していると聞いており、そういう場合も補助の対象になる。

2点目については、国の補助制度の実施要綱の通りの記載である。その意図としては、基準を一時的に外れてしまった場合であってもすぐに対象外とするのではなく、市町村の指導の下での早期の改善により、対象であり続ける余地があるということで、「おおむね」という

幅を持たせた表現とするもの。

3点目については、ご指摘のとおり、万が一事故が起きてしまった時の対応となるので、補償については最後に記載するように修正をしたい。

4つ目については、現在のところ国においてそういった補助制度は設けられていない状況であるため、市としてはまずは利用者への補助を始めることとし、状況を見ながら事業者への補助も検討していきたいと考えている。

・委員 特に4つ目は、補助はお金だけではなくて情報提供といった色々な支援の仕方がある。今は事業者が市内にないということなので、すぐということではないが、もしそういう活動をする所があって、それが刈谷のこどもたちのためになるのであれば、市も何か支援を考えてほしい。

・会長 新しい制度ということだが、「様々な状況の中で育つこどもたちの発達保障を」という方向だと思うので、ぜひ行動に移してほしい。

議題については以上となるが、全体を通しての意見があればお願いしたい。

・委員 議題1の時に「こどもたちが主役なのか」という話があったが、それに対しては一つの見方としてこどもがあるのではないかなと思っている。

「こどもも大人も主役」というのは意見としては一致しているが、こどもから見る、大人・高齢者・障がい者から見るといった、一つの見方から見るというのも少し不十分なところがあると感じる。フェミニズムなどでインターセクショナリティという概念が徐々に重要度を増しているが、こどもの中にも外国籍を持ったこどももいて、そう

すると、外国籍の人達が持つ「移民の問題かつこどもの問題」があるし、障がい者のこどもといった色々な見え方もある。これまで大人先導で行ってきた行政だったところにこどもの視点を取り入れるというのは可能性があると思うが、大人が考えるこどものイメージに基づく意見だけではなくて、色々なこどもがいると思うので、そういった見方を大切にして、色々なことを考慮して考えていく必要がある。

- ・ 会 長 インターセクショナリティという新しい概念について話してもらったが、私が研究分野としている社会学やジェンダー研究の分野でも、今、非常に最先端の、でも、人々の生活にとってとても大事な、「複数のマイノリティ性にいる存在を併せて社会全体で考えていこう」という概念だと思う。

若者委員からも何か一言あればお願いしたいが、どうですか。

- ・ 委 員 何とか発言したいなと思っていたが、勉強が足りていなくて何も言うことができなかった。これからもっと勉強をして皆さんのように見識を深めていけたらなと思っている。良い経験をさせていただいた。
- ・ 委 員 これまでの会議を踏まえた上で、こどもの意見や現場の意見も反映させているのがとても印象的で、こういった計画や制度を定める時には重要な点であるということを改めて感じた。また、大学生という立場で、資料7のような施策がこういった会議で審議されているということに参加しながら知ることができ、とても貴重な経験になった。
- ・ 委 員 色々な事業などについて自分の学習が足りていないなと感じ、こういった一つのことをやっていくにも様々な知識が必要ということを改めて学ぶことができて、より幅広い知識を持てるようにならないといけないなと思った。今回、こども計画を作成する時に、私はこどもに関しての視点ばかりを見て考えていたが、委員が発言されていたよ

うに、他のマイノリティの方々の意見を全く考えていなかったなと思った。そういった別の視点、色々な視点を持って考えていきたい。